

学位論文審査の結果の要旨

曲木若葉

本研究では、長野県宮田村 N 集落を対象に過去 4 回(1975、1983、1993、2009 年)にわたり行われた集落悉皆調査結果および秋田県横手市雄物川町を対象に過去 3 回(1980、1995、2014 年)にわたり行われた農家実態調査結果を用いながら分析を行っている。そしてそれに各種の公刊統計資料によるデータの分析を加えながら論文全体を構成している。先ず、このような長期間に及ぶ同一地点を対象とした調査資料を用いた分析には独創性がある。そしてそこから次に見るようないくつかの新しい知見を導いている。例えば、①全国の中間的諸地域における地域労働市場の 1980 年代の構造転換については、従来は統計分析によってその可能性が指摘されてはいたが、今回、この転換が初めて、一地域（宮田）についてはあるが、明確に実証された。②東北の地域労働市場の構造転換については、従来、まず、90 年代にその展望が語られ、次いで 2000 年代に転換後の状況が近畿等先進地域とは異なることが示唆されていたが、今回、一地域（雄物川）について、転換後の特徴が「男子年功賃金の展開が脆弱であることにある」点をはっきりと示された。③世に宮田方式と呼ばれる特徴的な地域農業システムは、実は、地域労働市場の構造転換前の、兼業滞留構造を前提としたシステムであり、それが構造転換後の状況に整合していないことが実証された。④雄物川では、60 歳以上の者を対象とした農外労働市場の展開が弱く、また年金環境もよくないために、高齢者の営農意欲が旺盛で、それが高地代をもたらしていることが示された。

以上のように、本論文が新しい方法論と知見を有すること、論文の内容・構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文は博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。